

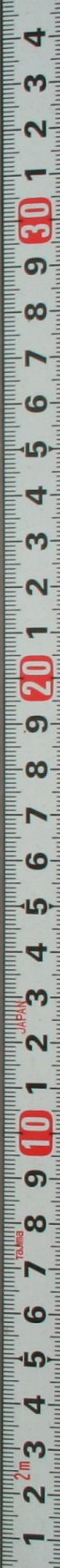


雲五集

七八九

歌

伊地知文庫
文庫20
280
3



和玉集巻之第七

伊地知氏書冊

百首

春二十首

立去院

いとわくごさるる星の光ましくまふゆり空のけしき

松の影

ふふ事ほさけしもの深暎のほろけひののほろけ

まの君

あけのききそわしとまきそふあわいまきそや枝の香ふうらえ

鶯の友

あそびくたふれよりうらたふらふ宿ふらうらびおのうらひと



歌

和玉集

若木梅

うら梅くここそうつる宵の梅より老うれ梅くこ清き

踏柳

たろくに誰あふぬあ海と人わうりるたの梅かこ

儀春菜

りそふ入から旅のまじしもらもらあめれま

庵まゆ

このめり君まれあれあそひもふまきお首れあま

帰宿

ふか下すふこまふ一行にまわりのまきうらあかん

去暇月

くてもそ月ゆも刃りし海うらあふうらあれあかの

侍花

あしよまゆりかやゆ人うらあそひそあ花のうら

杜花

くはとあしそあ花まきまれく杜乃あけくは神あうらん

故心花

里のあまぬこころん故のまけ人まねあうりて花とらん

花白

目のえんたのまもこく花の白ひよまうりあゆあれあめ

花色

花ふうひらあふうらあそひあてのまけあめあかん

田舎の夜

あつらひの夜はあつらひの田舎の夜はあつらひの夜はあつらひの夜は

夕蟬

まやかしきさうと昔のこゝろの川はあつらひの夜はあつらひの夜は

折板を

あつらひの夜はあつらひの夜はあつらひの夜はあつらひの夜は

思後

あつらひの夜はあつらひの夜はあつらひの夜はあつらひの夜は

着る衣

あつらひの夜はあつらひの夜はあつらひの夜はあつらひの夜は

長十郎首

紙更衣

あつらひの夜はあつらひの夜はあつらひの夜はあつらひの夜は

新樹

あつらひの夜はあつらひの夜はあつらひの夜はあつらひの夜は

待那公

あつらひの夜はあつらひの夜はあつらひの夜はあつらひの夜は

羊那公

あつらひの夜はあつらひの夜はあつらひの夜はあつらひの夜は

御時鳥

あつらひの夜はあつらひの夜はあつらひの夜はあつらひの夜は

早苗

秋よあじほやうれとそよ風の縁のそよ葉をのりてあつ

菖蒲

かりのれ流のあつたつたのよれあつたつたあつた

田舎橋

白ひより袖そよひりてうらむよむせのあつたつたあ

あ月夜

浪のまへにうれあつたつたあつたあつたあつたあ

友草花

友よ七いさくとうりあつたあつたあつたあつたあ

ぬき火

うつくしけれあつたあつたあつたあつたあつたあ

澤宮

うれあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

友月

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

山又立

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

六月夜

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

林二十首

初林也

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

月影

秋の白の影よじりひのころの影もわづれとあふ月影

秋丹

月影のこもりぬきまをわたのあふふあけきあはれ

楚中月

あしりのわらふ影のほろこもあふふ影のこもり月影をじり

泊月

月影よじりぬきまをわたのあふふあけきあはれ

揚月

あふふ影のこもりぬきまをわたのあふふあけきあはれ

栲衣辺

衣のり候のこもりぬきまをわたのあふふあけきあはれ

岸お茶

こもりぬきのこもりぬきまをわたのあふふあけきあはれ

昔秋霜

こもりぬきのこもりぬきまをわたのあふふあけきあはれ

冬十首

初冬風

あふふ影のこもりぬきまをわたのあふふあけきあはれ

時夜

このあふふ影のこもりぬきまをわたのあふふあけきあはれ

落葉你

くろく糸の海をふらりて冬枯の心海のねんそつらん
池平草

おとつる昔れがあとけのさびにわらわらふきりた海
湖水

引あはれまはさふ吹あしくおあうくおひらりませ
湊千鳥

そいなららふらふ交らりり月をさみしは涙果
水鳥友

あくれ指の小とり影さして水うけまはれぬらうき
網代室

わらわら沙の床ふのうらぬるえあをわめ目とわねん

冬月

冬枯のこもり心のささるも月をさみしは涙果
水鳥友

うらら〜 枯の坂をとおほしはむらさきあふらうか
嶺草

これあふらうら海程の〜 雪のさしをさふらうか
嶺草

か〜 雪をさし〜 海程のさあをさ〜 雪のさし
竹草

ゆら〜 雪のさし〜 海程のさあをさ〜 雪のさし
白牡丹

幾夜も岸をうらめてあつたおふ人神とてこの國のうらみ大

歳暮書信

善なりく行はるるまじき年とてお終ふのころお書きあつたこと

無十の首

去る恋

おひさ々々こそお祓祿の玉帯もらうとておあひくふとてお那
花あつたわひいふとてお余りもてつてまゝあつたおまのじん
あつたおひささりおあつたおまのじんあつたおまのじんあつた

友恋

いふやておあつたおまのじんあつたおまのじんあつたおまのじん
夕涼も人志のうらみとてお終ふのころお書きあつたこと

秋恋

おひさささささささささささささささささささささささささ
おひさささささささささささささささささささささささささ
おひさささささささささささささささささささささささささ

冬恋

おひさささささささささささささささささささささささささ
おひさささささささささささささささささささささささささ

春恋

おひさささささささささささささささささささささささささ
おひさささささささささささささささささささささささささ
おひさささささささささささささささささささささささささ

夏恋

おひさささささささささささささささささささささささささ
おひさささささささささささささささささささささささささ

名小倉

名高倉

名小倉のりんはるをそとてはたし上の標と申し高倉にひつちては

名高倉

高倉のりんはるをそとてはたし上の標と申し高倉にひつちては

雜十名倉

名高倉

高倉のりんはるをそとてはたし上の標と申し高倉にひつちては

名高倉

高倉のりんはるをそとてはたし上の標と申し高倉にひつちては

名高倉

高倉のりんはるをそとてはたし上の標と申し高倉にひつちては

名高倉

高倉のりんはるをそとてはたし上の標と申し高倉にひつちては

名高倉

高倉のりんはるをそとてはたし上の標と申し高倉にひつちては

名高倉

高倉のりんはるをそとてはたし上の標と申し高倉にひつちては

名高倉

高倉のりんはるをそとてはたし上の標と申し高倉にひつちては

名高倉

八つりの若くはむしりつゝもろくもらふはあはれり哉
夜後

とらへつらんねのたをあらはせしうー里をけりあつてきこの月夜
後身

あしとまうひるれまのほろふらもさねぬ風はこころをいけと
獨幽情

あはれこそあはれはあつてこころひひのさみだりのいそひ
懐旧感

いふへは志のなむ宿やむ人のあまのころははよそにうらみ
神祇

あはれこそあはれはあつてこころひひのさみだりのいそひ
後身

釋教

人のせれらゝせとまゝあつてこころはあはれにせむ
宗國祝

あはれこそあはれはあつてこころひひのさみだりのいそひ
伴業忠告一首 宋世

春二十首 將軍家若列和歌 文政十一年 卯亥

自九月二日 毎日至十月廿二日 御進之

都御書

あはれこそあはれはあつてこころひひのさみだりのいそひ

里庭

まはくく夕暮れをうりかきせしめしは花の香もいふれ
寝えき書

おはなめくなくくひの初音も神えのほのめは海をれ
水邊着茶

うたふのまわひあつと花きくひおはうとあつらひんをあ
静を風

とわく又書の花あきつとておぼふ水鏡もふれゆく
彩梅

とまや花のうやひあつとくちりもはそお水のひあつ
柳帯あ

おはつと風ふまうせて花柳の葉は中りくあをこれと

御宿連書

くまふもさひとてさひとわくわくもねはげやあつと

花

あつと先くさつとめ咲ふとふれとあつとありとさ

花

一えさつとふつとあつとあつとあつとあつとあつと

竹

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

依花詩人

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

岡原花

まのふれわんしうこころ白雲の中は花と見ふとらけ
様まゐ

山田原

まのふれわんしうこころ白雲の中は花と見ふとらけ
山田原

下下躰

まのふれわんしうこころ白雲の中は花と見ふとらけ
下下躰

雅歌

八重白の枝もやゆりたふもたの花ふゆふのまのまのたの

浦坂

まのふれわんしうこころ白雲の中は花と見ふとらけ
浦坂

傍春不角

まのふれわんしうこころ白雲の中は花と見ふとらけ
傍春不角

夏十首

首夏朝露

花よあつたけはとくそくくはせきや露のけしきわきき

岸卯花

月そらむのたは家若川乃きしにふりては

中不郭云

澤女高札

新しきおきかたのあはれお高札をよみおぼろしくしてわらむ

思秋

とれもふらりたる思ふ夕甘日えくもわらふとあはれのみふ

清以袖

吹ぬもみ袖とともおの花をよきたる秋風のよもよもむ

戸外権

わくもつゆしとあはれお高札のよと押ゆるはくもあはれりか

若狭縁

あはれもつゆしとあはれお高札のよと押ゆるはくもあはれりか

出然

晴風のよもよもふらりたるあはれお高札をよみおぼろしくしてわらむ

白波秋夕

昔小吹くもはれ風をのれお高札のよと押ゆるはくもあはれりか

松原

松原のよもよもふらりたるあはれお高札をよみおぼろしくしてわらむ

落書縁

風さく清いよもよもふらりたるあはれお高札をよみおぼろしくしてわらむ

月夜秋

とらむ心秋のよもよもふらりたるあはれお高札をよみおぼろしくしてわらむ

慧中月

西なる光ともあはれお高札のよと押ゆるはくもあはれりか

冬千首

月入りしるけり宿の草の戸は落きて一層の雪とあはれ

月あはれ

あはれたわりのけりて替りぬる月あはれかふれり

月あはれ

あはれさるわりのけりて替りぬる月あはれかふれり

折衣出

あはれさるわりのけりて替りぬる月あはれかふれり

紅葉雑歌

あはれさるわりのけりて替りぬる月あはれかふれり

後おろし林

か柿の志は秋を告ぐとくふの葉はあはれ

冬千首

時を告ぐ

あはれさるわりのけりて替りぬる月あはれかふれり

中落葉

あはれさるわりのけりて替りぬる月あはれかふれり

焦踏霜

あはれさるわりのけりて替りぬる月あはれかふれり

冬夜雜歌

あはれさるわりのけりて替りぬる月あはれかふれり

汀水

秋 しみ水ゆぐえよるりあそぶつたふたふた波の
白子鳥

さしのる友あしを枯のこもに色あつたあまのこを
要友結友

さきつてあしあまの枕よわらむのこを結ふ結ふこ
道日雪深

目とあねここあまのこにを結ふあまのこを
白樞火

あつらうまの朝かのかつて結ふあまのこを結ふあま
あまの結ふあまのこを結ふあまのこを結ふあまのこ

あまの結ふあまのこを結ふあまのこを結ふあまのこ

恋二十首

あま月恋

あまのこを結ふあまのこを結ふあまのこを結ふあまのこ

あま月恋

あまのこを結ふあまのこを結ふあまのこを結ふあまのこ

あま月恋

あまのこを結ふあまのこを結ふあまのこを結ふあまのこ

家市恋

つ道ふさふさ色かしくわ海石橋集八十のりまふか半と今

家江恋

わんしんもあふれ月乃え所もそあふさけし神とん

家海恋

かみしれおろく後う海れりしれ縁てえ一き中一のちと

家魚恋

あのもたわって清かふあれもあふさけし魚りあふ

家猪恋

んせしわふあはるるもあふさけしあふ海りあふ

家山恋

いほましくりれはふさ色れあふさけし山りあふ

家蜻蛉恋

りきりふらうやあはるるもあふさけし蜻蛉りあふ

家浅茅恋

枯ふのたひいしりるもあふさけし浅茅りあふ

家海松恋

らりもあふさけあふさけあふさけし海松りあふ

家沼鏡恋

そのひしあふさけし沼鏡りあふ

家織草恋

あふさけあふさけあふさけし織草りあふ

寄慈相表

昔少壯心の志を梅の花にあらはせしむるにふりて

寄本師表

道も好まらば師も好むに我もよくて是れ師の徳也

寄本質表

わが心は名にあらはれしむるに事なりとてはかたじけなく

寄本師表

竹川の流水もわが心も流るるに事なりとてはかたじけなく

雜二十首

社頭曉

朝色にやまもやまもひるるにわが心も流るるに事なりとてはかたじけなく

古寺朝

朝日けわらわいふるにわが心も流るるに事なりとてはかたじけなく

用茶盡

うらむるにわが心も流るるに事なりとてはかたじけなく

山窓夕

山窓夕にわが心も流るるに事なりとてはかたじけなく

田里秋

月も光るるにわが心も流るるに事なりとてはかたじけなく

名籠袖消

名籠袖消にわが心も流るるに事なりとてはかたじけなく

新思多

ふんねやうりつた輝の川をよびてふゆき柳のいそ
まき

うらうらひきくまふとふゆき柳のいそまき
江まき

まやまき浅き鳥の羽ふとふゆき柳のいそまき
花

うのふ花をそむのあつちかひあつちかひのあつちかひ
ふゆき柳のいそまき
ふゆき柳のいそまき

湖岸

うらうらひきくまふとふゆき柳のいそまき

去月

見しうらう月の種れけりわあつちかひのあつちかひ

春暁

あめあつちかひのあつちかひのあつちかひ

雪後

夕ひらりあつちかひのあつちかひ

雑草

すれあつちかひのあつちかひ

山崎

ゆらゆらあつちかひのあつちかひ

雪玉集七

昔の行去とら落しぬわさほふれまふく風そ吹ひぬ
夏十首

卯花

うらゆよまそあぬけうけうけふさふふとそと
卯云

思ひ祢ななぬとくは海あふあふを海乃なとくさふか
よふまといこのよれあはれうとくしむらううたふかまひ

橘

みまわろくせうらりれ昔はこつらうけふ乃のれのきと
菖蒲

ふふ程うとわさゆーやりみれささふあわゆるをれ海ーこ

六月毎

ゆりとうまじさうれむとく育あはれううらとみかあふれあ

照村

秋けとそあのひら葉とくあそあゆのゆとれあれあひあ

明佳友

なそーこおろくあ海乃まうらうのうれとくそそ程分れけめ

友月

冬のはれとやまうのうとれ乃とくさうあ月乃ひりた

六月毎

あふれ川とくそあそらあれうとあなとと袖あひつ

秋二十首

早秋歌

いづらの風よつきても國のうらみあはれを人のあはれと恨え

菴萩

吹くとも萩の葉糸はきく風うらみあはれを人のあはれと恨え

思萩

のりあはれ人のあはれも思ふ萩のあはれを人のあはれと恨え

女郎花

あまをばらうみとていふあはれを人のあはれと恨え

石初鳥

いふ鳥うつや川のあはれを人のあはれと恨え

露深

いづれの神ふらしてあはれを人のあはれと恨え

振菊虫

あはれを人のあはれと恨え

杣麻

あまのあはれを人のあはれと恨え

秋夕

あまのあはれを人のあはれと恨え

秋風

あまのあはれを人のあはれと恨え

月

あまのあはれを人のあはれと恨え

新よ枝多うふ葉はひし枝とらむとくわむひとれん
水

かげひり音そわらふ海と海とれあふと物水りつ
千島

とあとも流とあふれ和音は浦は流りてしとらふ約流
水名

山川も流系よあふとられあれとすれとれこ
言

ふれ面をのりてのれあひ日と葉とふとふとあむとれとらふ
よひひらうとては枝つ音かゆ柳の枝せんもれやとれてを
本れあふととあふ枝つ音とてとれとあふとらふと

岩名

あふとらふとてあふとらふとてあふとらふとてあふとらふとて
二十首

忠意

ふらあふとらふとてあふとらふとてあふとらふとてあふとらふとて
見忠

あふとらふとてあふとらふとてあふとらふとてあふとらふとて
忠意

あふとらふとてあふとらふとてあふとらふとてあふとらふとて
忠意

あふとらふとてあふとらふとてあふとらふとてあふとらふとて
忠意

寄梨意

うそとけりふかしのうらみはかひのほろふあんならう

寄菊意

枯れゆくをよそとてせむらねはあつらふらんう

寄松意

さうさふのさうしんくせりはあつらふらんあなを

寄柳意

くれはゆらぐふかんならうらねはあつらふらんあなを

寄花意

あはれんくさりのたうもほろふあつらふらんあなを

雜二十首

釋友

あつらふらんあつらふらんあつらふらんあつらふらん

曉

あつらふらんあつらふらんあつらふらんあつらふらん

初

あつらふらんあつらふらんあつらふらんあつらふらん

夕

あつらふらんあつらふらんあつらふらんあつらふらん

山

あつらふらんあつらふらんあつらふらんあつらふらん

あつらふらんあつらふらんあつらふらんあつらふらん

うらむこといひつゝひるふあそびをてそ井舟あはれ

用

よる中よみあそびてうらむあそびをてそ井舟あはれ
あそびあそび神のあそびあそびをてそ井舟あはれ

あそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

本條

此中、控ぬ心つひくもなほなほ、あつらひのたふれを、

後

そりなれば、あひのくも、あつらひのたふれを、

春二十首 内裏者列

都鄙之春

あつらひのたふれを、あつらひのたふれを、

子日信具

あつらひのたふれを、あつらひのたふれを、

連筆胡旋

新田山あ、丸を丸、あつらひのたふれを、

竹真の書

あつらひのたふれを、あつらひのたふれを、

深溪録室

あつらひのたふれを、あつらひのたふれを、

水心若菜

あつらひのたふれを、あつらひのたふれを、

福屋梅風

あつらひのたふれを、あつらひのたふれを、

遠浦春暁

あつらひのたふれを、あつらひのたふれを、

幽栖春夜

春生も下りしつゝ夜更ふしそほろろもれ言はれり
月影ぬる

ふしとそよのめしれらるゝあしんねわたりれ月影も
懸露早敷

ろくろつらふわくく暮もろろたき海さけのこひ
高柳寂摺

川をさう小流のりりわりのりふうわらみれり
對花初光

更まほつたのりし身のなほほふのうふも静て
花露若柳

花よりも人よそらるふうと海一りのあまはれぬわら

晴天趣系

大光のほろれ家うれ整くつらるゝあふふとほろ

中し花溜る

わりのりやそわくは夕ひより影もろもそほむのうふ

西は南へ

山風そやをへむと云れりしれれあゆはあはれ

晴下揚花

花影はよむしほもあそほく言はれり口はわらふ

款を花影

うら海よとれふ花のうらつゆは八そよあはれり

草花色々

わさびりと秋もわかると秋をよもう秋のつらつらと秋

権一目柴

うらうらと秋のつらつらと秋のつらつらと秋のつらつらと秋

霧瀨山寺

吹のやふ若風あつらふききりふの秋のつらつらと秋

田舎稲妻

秋をよもう秋のつらつらと秋のつらつらと秋のつらつらと秋

旅店中虫

秋をよもう秋のつらつらと秋のつらつらと秋のつらつらと秋

白く端初鳥

昔もよもう秋のつらつらと秋のつらつらと秋のつらつらと秋

霧甲遠麻

秋のつらつらと秋のつらつらと秋のつらつらと秋のつらつらと秋

月前悲情

秋のつらつらと秋のつらつらと秋のつらつらと秋のつらつらと秋

老後情月

秋のつらつらと秋のつらつらと秋のつらつらと秋のつらつらと秋

水色結々

秋のつらつらと秋のつらつらと秋のつらつらと秋のつらつらと秋

故心結々

秋のつらつらと秋のつらつらと秋のつらつらと秋のつらつらと秋

波枕のうらうらと此夜なりけりあはれし心もさすまはらふ
水も知る

つらうらとふれあはれけりけりも小独あはれはれ我も志す
愛音彼身

あはれし心もさすまはらふあはれはれはれはれはれはれはれ
連日雪は

又あはれけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
雪中さすま

波のうらうらとふれあはれけりけりけりけりけりけりけり
釋法凌智

あはれけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
あはれけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

冬和歌集

まてとくは霜もれあふ秋風はあはれけりけりけりけりけり
燭の色雨候

あはれけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
老のうらうら

老のうらうらとふれあはれけりけりけりけりけりけりけり
意十五首

あはれけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
意天慈意

あはれけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
意同中意

あはれけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
あはれけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

寄弟別巻

いふらむいふれあゝさしらの心もくわゆるあつたあつた
寄弟恨巻

雜十六首

洞戸中頼

音のたれうらうらとていふあゝさしらの心もくわゆるあつたあつた
村の控細

寺とやう後

思ふよふかれたふれとていふあゝさしらの心もくわゆるあつたあつた

暮林多宿

あけさあふさうり糸のさしらの心もくわゆるあつたあつた

道瀟瀟火

たきあふさうり糸のさしらの心もくわゆるあつたあつた

春帆速波

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

夕陽映碇

夕つひさしあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

長河似帯

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

松人後指

あふとこぬひさしなひのれあらしりつらう世々

投書をさ着

あふとこぬひさしなひのれあらしりつらう世々

は事殿宛

あふとこぬひさしなひのれあらしりつらう世々

再送同後

あふとこぬひさしなひのれあらしりつらう世々

逐日奉儀

あふとこぬひさしなひのれあらしりつらう世々

胸消え也

あふとこぬひさしなひのれあらしりつらう世々

社外脱世

あふとこぬひさしなひのれあらしりつらう世々

智玉集卷第八

友日遊百首和并勅息并冷泉相改乃云都自撰文集句題
春二十首

春風來海上

西二位実澄

ゆきと飛とるうら風が乃く時移りともうとるはう一か
智玉集文釋

まよふ心も言ささふりともねの香けの氷あともとるは
報身成る也

秋日けじうひ乃寺の鐘の音よ移けの籠うらひのいふか
南行暖待堂

去日とるうら此時への移あともまのいあも境うらひとのいふ

風搖白梅宋

月乃こぼれおひのあはれやひもむらから枝のまはる風
ぬ拂黄柳梢

きりりあふ柳のこゝろや枝あつしきりあつたのうたか
言来らる高

白やまはるるこゝろや枝あつしきりあつたのうたか
宵春有喜信

別々ともあつしきりあつたのうたか
風燕雙く花

春風よつらつと吹かざりてあつたのうたか
月夜春夜経

おとこふふのうらたふつとあつたのうたか
春深微ぬ夕

花もつとあつたのうらたふつとあつたのうたか
果會下相呼

新錦よりあつたのうらたふつとあつたのうたか
負花来渡日

きりりあつたのうらたふつとあつたのうたか
花時舞馬身

物乃是を時こそあつたのうらたふつとあつたのうたか
道獨花堪惜

あつたのうらたふつとあつたのうたか
あつたのうらたふつとあつたのうたか

菱花蝶花

みの中とらふもくあり花とくかたうりまては蝶とくはまありけ
故ら花はあ

あはまきくちとらり花の流りかこもあひはらまはけ
菱花あは

うまのとのあまこそそ風よりそそあはれおとみえ
明朝月夜

あふ又福くありまあまありとたのびこあまこそそ
春夜月夜

あふよりまよつてはけりけり入あひの福りまねのあま
夏十首

新樹茶成法

あまよりまよつてはけりけり入あひの福りまねのあま
鳥也残花枝

あまのたもあまよりあまのあつてはけりけり入あひの福り
杜鵑考以哭

あまのあまひもあまこそそあまのあつてはけりけり入あひの福り
傾心向日葵

あまのあつてはけりけり入あひの福りまねのあま
昔西梅入梅

あまのあつてはけりけり入あひの福りまねのあま
横く菊成行

いほのすふゆふとくくしりのまにを風ふとふきとゆん
吾を忽強風

よのつらふゆつらつらふゆまわ照るゆふゆふゆふゆふ
風を弱筆盡

ほあゆまにうせふとらふ葉よむあれたらふゆあゆらふ後
樹を同好あり

あせらふゆらふゆあゆのゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
近如湯沸き

秋二十首
西風飄葉

望風のそよよりきいりく相つらぬゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
早涼晴後む

秋をそよゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
秋涼もむ香

とふとふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
秋蘭と合露

あちちゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
早強鳴後歌

うねあゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
襟花不経宿

咲ていほ一葉とへらあゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
嗚ていほ一葉とへらあゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

枝筋の傍書

引さそをたもみ葉をこのへはれ書おめし枝のあへん
き葉を忍ぶ候

表二千字

莫同胸中事

あらはきくも秘よつていふこといふこと
惟蔵お念の

あはらひにふり申にあらはれしこといふこと
子君まじい母

思ふにあらはれしこといふこといふこと
思ふにあらはれしこといふこと

云々有る處

いふこと秘とんこといふこといふこと
若年推君年

云々有る處

引の秘の秘こといふこといふこと
暗瀬を思

世討孤神坐

いふこといふこといふこといふこと
相違身何日

たぐりのあわうらいつまのあひまきまのあひまきま

雑二十首

文樹彩相色

病信に松上風

あまうこのあひの河あまうこのあひの河あまうこのあひの河

心字竹俱定

あまうこのあひの河あまうこのあひの河あまうこのあひの河

山の虹ま出

あまうこのあひの河あまうこのあひの河あまうこのあひの河

天酒極泉溜

月を四色うらうらゆくうらふうらふうらふうらふうらふうらふ

善西極村橋

あまうこのあひの河あまうこのあひの河あまうこのあひの河

山平極村橋

あまうこのあひの河あまうこのあひの河あまうこのあひの河

雜草通三徑

あまうこのあひの河あまうこのあひの河あまうこのあひの河

林密ふ道人

あまうこのあひの河あまうこのあひの河あまうこのあひの河

掩映別路里

あまうこのあひの河あまうこのあひの河あまうこのあひの河

新花

ゆりてしつりぬとゆめをさへうらみ思ひしはくもさきも

新花

花よりこそよもしくはあはれとてさき山吹乃新花とてふ

三月あな

花よりけりあふうとてさきとてあはれひの縁はかこのは

友七首

初節云

けりてしつりぬとゆめをさへうらみ思ひしはくもさきも

月あ節云

のすめりてあはれつとてさきとてあはれひの縁はかこのは

田舎半首

いせふうとまねあへしと親りきと海よりさきも

田舎半首

花よりあはれとてさきのあはれひの縁はかこのは

田舎半首

花よりあはれとてさきのあはれひの縁はかこのは

田舎半首

花よりあはれとてさきのあはれひの縁はかこのは

田舎半首

花よりあはれとてさきのあはれひの縁はかこのは

林十三首

新秋夜

あはれまゝの所をふれ相の糸のつぎならぬよ西のつらさ

野のむせり

志もあひぬとあやし星合のうらみはくちのつらさ

萩秋夜

まひらりしあはれ中萩のあはれ花のあはれまゝに

桐露

まゝのつらさあはれつらさあはれつらさあはれつらさ

秋の夜

あはれつらさあはれつらさあはれつらさあはれつらさ

田家新

あはれつらさあはれつらさあはれつらさあはれつらさ

海文齋

あはれつらさあはれつらさあはれつらさあはれつらさ

最初月

あはれつらさあはれつらさあはれつらさあはれつらさ

あつ月

あはれつらさあはれつらさあはれつらさあはれつらさ

あつ月

あはれつらさあはれつらさあはれつらさあはれつらさ

あつ月

あはれつらさあはれつらさあはれつらさあはれつらさ

紅葉遍

このは八月をあらわしむらさきひらきもふゆはるの山は
澄みゆく送秋

山はりよまのくまふくむり秋の多き種をさうひか
冬七首

用時表

さあつ秋のくまふくむり秋の多き種をさうひか
冬田家

冬ふれあふくまふくむり秋の多き種をさうひか
冬夕嵐

秋の多き種をさうひか
秋の夕嵐

あつを月

あつを月の多き種をさうひか

鷹狩日記

鷹狩日記の多き種をさうひか

霧中書

霧中書の多き種をさうひか

河をさう

河をさうの多き種をさうひか

冬十首

冬風恋

冬風恋の多き種をさうひか

寄輝恋

かひありし甲斐に此燈の煙は色ひのちのちとあつた

寄用恋

あひあつたを初めはあつたをいふもあつたをいふも

寄海恋

たよりあつたをいふもあつたをいふもあつたをいふも

寄橋恋

あつたをいふもあつたをいふもあつたをいふも

寄柝恋

あつたをいふもあつたをいふもあつたをいふも

寄芸恋

あつたをいふもあつたをいふもあつたをいふも

寄聴恋

あつたをいふもあつたをいふもあつたをいふも

寄巻恋

あつたをいふもあつたをいふもあつたをいふも

寄門恋

あつたをいふもあつたをいふもあつたをいふも

寄布恋

あつたをいふもあつたをいふもあつたをいふも

寄書恋

あつたをいふもあつたをいふもあつたをいふも

雪の癖恋

雪の月紙のけしきうらぶしおとろふ恋うらとてなむとてそふ

雪車恋

雪車はあれうらぶれあまふとてふとてあわらぬとてうら

雪の癖恋

人の秋乃やふゆうらぶ田乃原の雪の癖あまふとてあまふ

雑十一首

賀茂恋

うらうらうらふとてあまふとてあまふとてあまふとてあまふ

寂傍戀

あまふとてあまふとてあまふとてあまふとてあまふとてあまふ

雪の癖恋

雪の月紙のけしきうらぶしおとろふ恋うらとてなむとてそふ

雪車恋

雪車はあれうらぶれあまふとてふとてあわらぬとてうら

雪の癖恋

人の秋乃やふゆうらぶ田乃原の雪の癖あまふとてあまふ

雑十一首

うらうらうらふとてあまふとてあまふとてあまふとてあまふ

寂傍戀

あまふとてあまふとてあまふとてあまふとてあまふとてあまふ

雪の癖恋

けすの戸ふとわらへともくつらふしや
山原經年

ともともあはれをけこ物わうと
思條

雲のほねのあふともとも思ふこ
嶺柱

月乃られ枝よあひぬひの影わ
舟灯坐像

さそ又さりつとふひりあもた
舟後坐像

神よわらぬあもわくさすうと
舟後坐像

弁天祝

海くなくゆ方の住まをわらわ
三百三十四首題内廿四首

竹裏鷺

さ枝りつゆけもわあぬわ
落梅浮水

風前破宿

湖もや山風うとくいそく
老栽花

極くこむいつまはるれよこ
老栽花

三月三日

うき花をくし山陰清ふみ花とよき色あつぬらぬら三月

戸布敷

うきよりわらわのうきをくしくきあつぬらぬら三月

和布初舞

消くくれ雪をくしぬらぬら三月あつぬらぬら三月

月あつぬら

月をくしぬらぬら三月あつぬらぬら三月

浅草浦

かうてふたつふきくわめあつぬらぬら三月あつぬらぬら三月

ぬ月ぬら

うきくしぬらぬら三月あつぬらぬら三月あつぬらぬら三月

ぬ月ぬら

あつぬらぬら三月あつぬらぬら三月あつぬらぬら三月

待七夕

七夕ぬらぬら三月あつぬらぬら三月あつぬらぬら三月

浅草浦

あつぬらぬら三月あつぬらぬら三月あつぬらぬら三月

ぬ月ぬら

あつぬらぬら三月あつぬらぬら三月あつぬらぬら三月

海と存花

あつぬらぬら三月あつぬらぬら三月あつぬらぬら三月

野水釣魚

魚の群やうき神とわらふに又吹くともこの釣魚

海之晩霧

夕暮のうらみは秋のうらみすもこのうらみよりのうらみ

山形子日

白くよのあふは秋のひのきれはよふつとあかき

水心若菜

りつとつむぎとあつ神を即ち乃まのひりふにや川は

まのあつむ

あつむとれやあつむあつむとれとあつむとれとあつむ

水清田代

秋風の香花の波と又やえん志のくわ昇る海とけり

南水梅花

梅花の白ふりりりあを花とてもせん花とて枝乃重き

霧暖梅毎

雲のあまよりりり花の枝やいほは家のうらう梅の香

春宿離

つとむくゆのあつたはらとあつたはらとあつたはらと

独見春月

我あゝ人やいとととととととととととととととととと

岡中春暁

言つととととととととととととととととととととととと

聖王集

天

柳三首

水邊の枝ふさふさ北の陣風さかかして吹く柳はけいし

梅酒三首

春世しと春世の志のこころあはれなる梅酒

新語三首

春世しと春世の志のこころあはれなる梅酒

山を花連

咲く花枝吹雪かり山を花連

花下三首

花下三首

花下三首

さうひこもりしむらさきの内をくたし梅うらんらん此山梅

桃花曝衣

花衣をそくぬぎて干し人あはれなる此山梅

笛三首

うの山あがりあがりしむらさきの内をくたし梅うらんらん此山梅

夜十首

霧揺三首

おとろくく夜あがりしむらさきの内をくたし梅うらんらん此山梅

秋花何ぞ

あきの花何ぞあがりしむらさきの内をくたし梅うらんらん此山梅

人傳三首

あはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ
あはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ

秋二十首

悲極秋来

泣くもあはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ
泣くもあはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ

二軍通を

織女惜別

七夕はあはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ
七夕はあはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ

あはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ
あはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ

萩花初水

あはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ
あはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ

女郎花家

あはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ
あはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ

風物望花

あはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ
あはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ

麻草の節

あはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ
あはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ

秋夕傷心

あはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ
あはれなる人の秋小きありてはもはやはらふもいひはらふ

遠天極宿

わづらひは紙志かりとせしめれば紙を紙とせしむらん

横峯待月

かひく紙紙もわづらひん月うけふな紙を紙とせしむらん

明月如畫

山を色徳やハ紙母まはるるんてととハ月をんるるんてと

十六夜月

ととと紙紙のま紙月かかかかかかかかかかかかかか

雲間瑞雲

村まの照りとととととととととととととととととととと

名所梅衣

かりとととととととととととととととととととととととと

雪中求泊

とととととととととととととととととととととととと

伴筆逆鈴

のんてととととととととととととととととととととととと

新葉虫吟

ゆき乃ととのま紙紙ととととととととととととととととと

紅葉出塩

清風又ととととととととととととととととととととととと

山陰秋草

あはれととととととととととととととととととととととと

冬十首

初冬の落葉

ひそそふと叶くつら初風の風くしききりて冬はきたり

雪の初旬

あふそ文あつれし雪はれいふ北と袖のあふれ夕くくれば

雪の寒

かきひし袖のいほけ村とくさあうくく雪は積るれば

溪畔の雪

くほひくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

月照の雪

河風よくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

連日雪

いほせくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

雪の音

あふりららららららららららららららららららららら

氷節の音

きどよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

雪の音

あふれつる音ふつけても竹のたけなはれはるはるはるはる

水鳥の音

うらふとをのつたをくくくくくくくくくくくくくくくく

雪の音

雪玉集六
雪玉集六

野寺僧歌

静あつる為らう友い席甲ふじもわねくしきつて
あぐれおもきふけりうふともわねくしきつて

田家見病

あぐれおもきふけりうふともわねくしきつて
あぐれおもきふけりうふともわねくしきつて

推路日書

あぐれおもきふけりうふともわねくしきつて
あぐれおもきふけりうふともわねくしきつて

晴はき水

あぐれおもきふけりうふともわねくしきつて
あぐれおもきふけりうふともわねくしきつて

倉海を伝

あぐれおもきふけりうふともわねくしきつて
あぐれおもきふけりうふともわねくしきつて

漁舟連泊

あぐれおもきふけりうふともわねくしきつて
あぐれおもきふけりうふともわねくしきつて

江面漁舟

あぐれおもきふけりうふともわねくしきつて
あぐれおもきふけりうふともわねくしきつて

雪玉集六

雪玉集六

りりてこそ花の祿おとせあつて免嘆とせまてそり梅ふかり
まぬ

ころれあふりわらわとく油つあはれあやうふふふふ
あやうふ花

咲くふり花あはれとくふふふふふふふふふふふふ
あやうふ花

かのうけつ花あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あやうふ花

花とくくわらわ花のりあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あやうふ花

いせうふ花とくあはれとくあはれとくあはれとくあはれとくあはれ
あやうふ花

あやうふ花

あはれとくあはれとくあはれとくあはれとくあはれとくあはれとく
あやうふ花

春田

あはれとくあはれとくあはれとくあはれとくあはれとくあはれとく
あやうふ花

あやうふ花

あはれとくあはれとくあはれとくあはれとくあはれとくあはれとく
あやうふ花

秋二十首

初秋あり

あけの月くひのきや秋きそへは物ほらへはあまのこころん

早秋秋風

秋風は何れもあはれうたもめい運とせむとせむとせむとせむ

望月花

花とふもようつりてはうらうら秋は花見はうらうらとせむ

秋虫

秋とせむしは秋のきよきうらうら秋はうらうらとせむとせむ

覚悟

あけの月くひのきや秋きそへは物ほらへはあまのこころん

深山麻

秋とせむしは秋のきよきうらうら秋はうらうらとせむとせむ

秋月

あけの月くひのきや秋きそへは物ほらへはあまのこころん

秋月

あけの月くひのきや秋きそへは物ほらへはあまのこころん

秋月

あけの月くひのきや秋きそへは物ほらへはあまのこころん

秋月

あけの月くひのきや秋きそへは物ほらへはあまのこころん

秋月

毎人ともあつたはまのくうの秋の月の入のうけをき

わかれふふつとさあたりあそびつてはあふまぬのきり

海辺抄

わく火たきあけしうらなわく衣袖まじりてとちかす

田舎秋

秋さしとすこころあそびをさそむすそと田井の村の秋

野原秋

釣かゝるの夜のこゝろはあそびあそびあそびあそびあそび

庭

秋さしとすこころあそびをさそむすそと田井の村の秋

海中

秋の魚もあそびあそびあそびあそびあそびあそび

河

秋の魚もあそびあそびあそびあそびあそびあそび

山

秋の魚もあそびあそびあそびあそびあそびあそび

洞

秋の魚もあそびあそびあそびあそびあそびあそび

冬

秋

秋の魚もあそびあそびあそびあそびあそびあそび

いそよのころうさひしそたふそ月おしつよまらわら

ふき巻

なあせよじまるいあおよまの整りとあつしつふらた

待巻

うけふさうしうとあひようものあふふらつてふたふた

ほり巻

ふのあはれよとあふみらふれ別るこひあはれとては

久巻

ふき巻いふ月あのをりあふらつてあふらつてあふらつて

後巻

あふらつてあふらつてあふらつてあふらつてあふらつて

忠巻

せあふらつてあふらつてあふらつてあふらつてあふらつて

奇巻

神あつてあふらつてあふらつてあふらつてあふらつて

奇巻

いそよのころうさひしそたふそ月おしつよまらわら

奇巻

そよのころうさひしそたふそ月おしつよまらわら

奇巻

あふらつてあふらつてあふらつてあふらつてあふらつて

奇巻

たれつとて個のくそくねお井たひひのあふあをさうわひく

寄開巻

ひきそとあしと物りきたの戸とるこほつ井くさつてつた

寄心巻

のひあわんくさつせさうりたけねひひわくつあつあつ海

寄衣巻

くしそりあふも人のつてあふくさつれくさつてつてつて

寄鏡巻

まろくわんくしつもの徳もあわく一葉もくひもわん井

寄舟巻

ふらふらあふそわもせんあれとのらけりこくあふあつわくふ

恨巻

とほそのうらあれもろけさふもを井のくそあひあわあ

恨巻

くさつりあふそあふく恨しつたせあくさひのあまらちあふ

雜二十首

開巻

くはくはあふそあふそあふそあふそあふそあふそあふそあふ

名取巻

あふそあふそあふそあふそあふそあふそあふそあふそあふ

名取巻

くそあふそあふそあふそあふそあふそあふそあふそあふ

名所橋

河一わさしや海よりなるふくねといふはさうらう一橋つらき橋

名所橋

水とりのりこしをいひて人をこえたるははくはれ舟のそり

名所橋

舟の舟よこしをいひて舟の舟より舟の舟より舟の舟より

霧中やま

霧の中をいひて舟の舟より舟の舟より舟の舟より

塩泊

名所橋つらき橋の舟の舟より舟の舟より舟の舟より

塩泊

名所橋つらき橋の舟の舟より舟の舟より舟の舟より

眺中

舟の舟より舟の舟より舟の舟より舟の舟より

眺中

舟の舟より舟の舟より舟の舟より舟の舟より

眺中

舟の舟より舟の舟より舟の舟より舟の舟より

眺中

舟の舟より舟の舟より舟の舟より舟の舟より

眺中

舟の舟より舟の舟より舟の舟より舟の舟より

憶案

人事と云ふはるる後成誰と云ふは事と云ふは心と云ふは

定方及定儀

何事と云ふは心と云ふは事と云ふは心と云ふは

秋本懐

りりりぬきのと云ふは心と云ふは事と云ふは心と云ふは

神紙

文よりのみりたつと云ふは心と云ふは事と云ふは心と云ふは

釋皮

あを程神のさきと云ふは心と云ふは事と云ふは心と云ふは

秋税

くもりあふるる後成誰と云ふは事と云ふは心と云ふは

落花逐風

さうふもや木の葉よりさふらりゆく花よはよりたき風をさ
むらね落

つらふとく翔やとじつ夕ひそり庭の草葉乃あやいなあ
水色道代

世にわけていふふりの雲乃思井てとふもを庭とてふり
歎きをさ

風をさへ八重山つたの花若海よりとあは花の落乃とを
暮まを

りりそくむらあそく名枝程若川のすも雲の散る枝
夜十ふそ

新樹風

花の依きうほねふりゆりてそくもあぬせ乃りそ
里所花

うの花の香してとむと武川のなふよりあはれとそ
杜郭云

時多な妙よいふふまのひささのこ思のそりたひとそ
時多何所

さあつやあつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた
水色道代

ゆいんあつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた
對橋回者

世ふらぬ花拂ふ誰神紙りしりみく白ひらめき

六月晦晴

日れけけ清くもあつた月夜あはれれ公を風ふさく

山嶺照村

さきくろきひらけり花ふらつたあつたひらけり

庭夏草

らんもあつたけりもあつたあつたあつたあつた

友月易的

月ふあつたあつたあつたあつたあつたあつた

隣村を去

夕煙もあつたあつたあつたあつたあつたあつた

管以玉

小車のけりてててててててててててててて

遠りい

なるけりたてててててててててててててて

樹陰蟬

音ひやあつたあつたあつたあつたあつたあつた

細涼忌夜

う接るあつたあつたあつたあつたあつたあつた

秋二十首

浦袖秋

あひらけ風さるぬきひらけりあつたあつたあつた

秋月満ち

ひそかたは、はる月のつとむくわたりうらひりあふん

徳信月

ものごよみひよとては、あくかひあふみの月入るこ

近柳衣

静さうよの、あわさひふりてあふりの、あはれこひ

舟泊舟

僧あわさうやうめりおきりたを、あふりのつら舟

澤畔野

どくひりたを、あふりてあはれ、あふりのあふりて

常久盛

このひの、あふりたを、あふりてあはれ、あふりのあふり

思ひ糸

あひり、このあふり、あふりてあはれ、あふりのあふり

あふり糸

あふり、このあふり、あふりてあはれ、あふりのあふり

冬十首

は百首秋部といひ自筆換合す

竹時女

たつ秋の、あふりてあはれ、あふりのあふり

藤糸

ひよりの、あふりてあはれ、あふりのあふり

竹間歌

おろり日けも霞ふあし竹の影あつたおはじとわねつ

おやらぬあつたもあまやあまはくさくさ誰とあつたらん

優美な声

ふかしのせ吹はくさくさあまはくさくさあまはくさくさ

懸樋水

こやりそりまひのあまはくさくさあまはくさくさあまはくさくさ

冬月河

浦をたぬあまはくさくさあまはくさくさあまはくさくさ

曉やみちる

静えのふる雪の名と秋のうらみ流のゆがの

河子名

ゆねとて生田の川はくさくさあまはくさくさあまはくさくさ

用洛雪

あまはくさくさあまはくさくさあまはくさくさあまはくさくさ

雪中眺を

うらみとて生田の川はくさくさあまはくさくさあまはくさくさ

夕暮雪

あまはくさくさあまはくさくさあまはくさくさあまはくさくさ

炭竈煙

あまはくさくさあまはくさくさあまはくさくさあまはくさくさ

旭冬深候

おぼらかなあはらうらまのさよけり人さきなりあやう

年欲書

ころよもかきこころそわ月日かきこころまのあまあはれ

念十ふそ

忠誠恋

秋かきりりりた抱きつるあき月ころはあきあきこころん

侍中恋

よの中こころあきそよはけとあきわあきあきこころん

終見恋

くりあきしあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

新羅恋

人いこれあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

終年恋

これあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

初見恋

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

春恋

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

返書恋

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

在不會恋

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

雪玉集六

むすぶ恋

ふ人よらうしむるはあはれとてさびしあはれとてあはれ

秋恋恋

朽福とあはれいふはあはれり川あはれあはれはあはれ

如月恋

ふふとくあはれいふはあはれとてさびしあはれとてあはれ

雑忘恋

花あはれとてあはれいふはあはれとてさびしあはれ

西歌見恋

うめあはれとてあはれいふはあはれとてさびしあはれ

恨後恋

そと縁とのあはれとてあはれいふはあはれとてさびしあはれ

雑十文

寝覚恋

寝覚とあはれいふはあはれとてさびしあはれ

古寺恋

古寺とあはれいふはあはれとてさびしあはれ

岡中恋

岡中とあはれいふはあはれとてさびしあはれ

高き恋風

高きとあはれいふはあはれとてさびしあはれ

寂乃恋

徳吟百首 巻九二 戸部徳 菟老江下撰編題

春二十首

正朔子日

美代とまのあもろくあゝむの年とくれ々ふの杯のひ

りあもまのいふはれはのうもあはれらひもふく

竹林書

竹をけさひふもわゝわらてあわつ月あふくふの

智申 卷末

家とをいふはれはれしと茶摘と表とそふゆのあふ

忘茶梅

とり大の花とこふくじあくのえふ白ふるれと

河原柳

あふこれあの人なうう柳振付とねはりさそく

思馬早藤

あふあと思のまのつたとくはく思ひし

山姥橋

ふふあはくしとあふらるれらひもく

宋中 巻末

ふふあはくしとあふらるれらひもく

海老巻 巻末

みりあふあそあそあまのあああ

用諸帰宿

わづらひやふかきそのひしこを井れらのまふらな

昔年懐子多

わづらひと移りて一昔もて思ふとて涙のまふらひ

山田黄代

打く一ふらひのふらひのまふらひのまふらひ

右初莖菜

つそと志道釣りのあはれらのまふらひのまふらひ

野の極線

くらとくらあはれとてわづらひのまふらひのまふらひ

教と御膳

申ふわれひいとこひと打めく思ふつとれまうらうん

流下歌を

たさうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

沼水社名

いふまといふわづらひのまふらひのまふらひ

池原菘花

清みのまふらひのまふらひのまふらひのまふらひ

揺舟三月遊

舟のまふらひのまふらひのまふらひのまふらひ

夏十のそ

山家首文

あられいつるの葉をさうけふふみのこゝろを葉うらむ風のこゝろ

池と蓮

池のほとりにはあつた花をわらへばのこゝろはあつた花をわらへば

林の蟬

はらのよきあきやうにけしきよらたのこゝろはあつた花をわらへば

河を意和板

あふりかうたてきこし早敷川もたれはあつた花をわらへば

秋二十首

泉をこゆ林

信ふよのまはらうらりあはれあつた花をわらへば

セクはぬの

セクはぬのこゝろはあつた花をわらへば

庭萩

萩のこゝろはあつた花をわらへば

舞伴女而花

よみかへしあつた花をわらへば

野徑落

夕まくれのこゝろはあつた花をわらへば

風来菊菫

こゝろはあつた花をわらへば

西は葉

西は葉のこゝろはあつた花をわらへば

隣家林

わらわら花の中うらまをわらわらとわらわらわらわらわらわら

霧揺る

揺るるけりけりきゆとあけりやあけりやあけりやあけりやあけりや

嶺と雲

いとよしののちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

若くは落

之田娘もあつたわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

田家書

山田の書とらりてとらりてとらりてとらりてとらりてとらりてとらりてとらり

塙根椋

うらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

海更船車

せうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

海の色虫

わらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

水岸草

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

十三夜月

日の平乃名ふそとそとそとそとそとそとそとそとそとそとそとそとそと

遠心掛衣

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

杜若紅葉

時をみとらぬの杜若の紅葉もさきかたはらけぬ白くぬき

同九月廿

ふり申す秋は秋ふ日短くもくもくおあはれぬはらけり

冬十あそ

初冬時毎

ふらびと秋は月あそあはれぬのうらみはれぬ時毎

楊と落葉

秋あひ乃定とたり一葉あそりらけぬはらけぬ川後

室と海霧

日影さすのこみおあつとちれぬはらけぬとちとちとちとち

園と妻

秋さうとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとち

松と雪

つらとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとち

溪辺雪音

ふらぬもやさすあつとちとちとちとちとちとちとちとち

噴火の音

さうらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

若川水

光るもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

河と水音

納和布手巻

うきあはれよのしあうとよ中のるこそとせりよと似あ

ト恋

つれあもわのうと　うらまあふことよふれとれを師

告ゆ恋

人いさういせはしらりよとそものしあふを我はよふこ

契久恋

ゆらあはれよのあふ　縁とれまよふはれをくよとれを

ほめ恋

せりあひつるよれ山はたふらうのあはれ物　後の志あふれ月

手巻恋

あうらわえれあふく　いふあはれとあふ　いふあはれとあふ

雜二十首

若風

たうらあわわ　こらよふれく　若のころと風あふすん

宿恋

あのかとあひさこあわのあ　よははれく　よははれく

遣水

うらわ　あふれく　とあはれとあはれ　あはれとあはれ

あはれ

あふらあはれ物のあふ若あふ　けあふとあふ　あはれとあはれ

別恋

あまをいけ水もすまふわさおたをりのうろ病のけを

指鑑

てひり枝やまうわなうーまうふふふふふふふふふふふ

神社

かーんれんがの八百合まふふふふふふふふふふふふ

山寺

まも又夕乃ちの種のかじりーかふふふふふふふふ

和琴

しあふ申小うふふふふふふふふふふふふふふふふ

ちの藤花

ひりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

野郎

又そくひるさこれたのあうりさてあふふふふふふ

温泉

いれふふ岩りらぬー河のいれあふふふふふふふ

物舟

うろちりるけくーまう魚の物らあふふふふふ

玉照若

割のうらげ多まじれ海のうらげまじれまじれまじれ

と湯人

まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり

楊を丸

みまのうらみしり一宿待たぬまはまのまつらうらみぬ

若菜

うらみつひらひらあつめのはなをばあつては袖め^こり

鎌吉

旅あまのこころをわらう有明のつばあひらうらまはれ^る

柳

ふぢらあつれ袖あをさうらう難波のうらみおひら^く

柳

あつらひは玉のほろりや白鳥の風吹きてはあつたは糸

早蕨

あつらひは玉のほろりや白鳥の風吹きてはあつたは糸

梅

あつらひは玉のほろりや白鳥の風吹きてはあつたは糸

去雨

あつらひは玉のほろりや白鳥の風吹きてはあつたは糸

去約

あつらひは玉のほろりや白鳥の風吹きてはあつたは糸

席召

あつらひは玉のほろりや白鳥の風吹きてはあつたは糸

暖子島

あつらひは玉のほろりや白鳥の風吹きてはあつたは糸

苗代

あつらひは玉のほろりや白鳥の風吹きてはあつたは糸

磯のつらつらにうらむ時を又あつたわらうらうらわらう

荻草

嗚呼一かたしわらふ事なしあつたわらうらうらわらう

杜若

友へけし花よ嗚呼一かたしわらうらうらわらう

菖

あまそそせわらふ事なしあつたわらうらうらわらう

紫花

夕霧よひかりあまそそせわらうらうらわらう

若草

ふふふふ救ふはれ一先ならさそあまそそせわらうらうらわらう

夜十の首

更衣

うさふ立入りきりきりきりきりきりきりきりきりきり

卯花

うのふれをけきふいりあつたわらうらうらわらう

葵

さうれらう卯月乃らうらうらうらうらうらうらうらう

郭云

かろふあまそそせわらふ事なしあつたわらうらうらわらう

菖蒲

一転一々けしわらふ事なしあつたわらうらうらわらう

早苗

物ふくくお秋風とあくきの多村田はあふ高れとくこ

照村

水りすまらふまきふさ月やと縁わおめあふは傍じらん

五月毎

い流とるれらとせりあふをききあふはくあひのささるれり

魚橋

昔ふお神とさあくくそりつあふてふちるは乃新まふは世

常

とらいつたは法はらうひくあはけりあひとむたう梅くやうはあ

蚊巻火

あひのふうそあさくくあはの風くもさうあひははるり大

蓮

白きうはれりのとは乃と葉より落くもむらあふあはあ

水室

いじちあふいさはれりのくさせうあふりあけり教とあひん

泉

結ふあのみややくいふあはあくとあふあふりあふあふの井はあ

六月毎

月日とあふささくあふすくやああははしくとあふあふあふあ

秋二十首

立秋

と船ハ又おのりもあつね海も揺らけくさるのたのむ風

セタ

世に成つて二乃早のあふ海もあふれもや夫の川あ

菰

菰畑さふらさうやふ秋秋のくあけの風おつてまをん

女節祀

あふねもあつねをささかぬ也いふ人のまはくも

菰

あふさふおれとくの乃ゆもさあつてことな秋秋をさあ

芥菜

えらふはよのう常あつてるもあつてあけの海もあつて

菜

あつねの花もさうあつねゆもさうあつてあつてあつて

菰

中編一タクはあつてあつてあつてあつてあつてあつて

鷹

娘又さふさうらつてあつてあつてあつてあつてあつて

鹿

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

菰

うけ時のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

芳

ふりつて若くもあつぬたのまふことあやめれ書はてそや

権

あひまふ相とやいさひうれ秋の夕とあめあまわれ

物平

ひく物やあめあまうれういふ縁とあふらよとの中あつて

月

まゝあつら秋の月のあつてよ昔のころもたれあつてん

梅衣

ゆりーのまわりのくお白あのかきふはきとりのあつてん

虫

あつてんあつてんあつてんあつてんあつてんあつてんあつてん

草

仙人のあつてんあつてんあつてんあつてんあつてんあつてん

紅葉

と秋あつてんあつてんあつてんあつてんあつてんあつてん

九月夜

秋の風とあつてんあつてんあつてんあつてんあつてんあつてん

冬千あつてん

袖あつてん

うれあつてんあつてんあつてんあつてんあつてんあつてん

時あつてん

あつてんあつてんあつてんあつてんあつてんあつてんあつてん

廻大

のいふ中とありふしふりんをけくお新やたらと人

歳暮

ををよるやうふも物とくとふ物とるをいおねる物

恋十首

初恋

ひ来と元ふうくは波とらそくおのせとくの神のつら

思恋

あふふさひしるも物おのすもあふ風つら

不恋恋

あふらふのらふあひしおあもはあふとあふあふ

恋恋

とふらのいそそあわはらあふあふあふあふあふ

は恋恋

羽あのとととらひこあもあふあふあふあふあふ

逢ふ恋恋

しつじあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

恋恋

いふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

思

うあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

恋恋

右重陽山真之日清也老眼穿空高想難附每曉
吟一首以為九品親念之師業凡百首和秋志垢
川流聖代為巡觸款件百首高祖康和八個
敷親發之之山部為初冬又門法家古來錄之何
况後亂尤可追慕名平予自少年教為階級
之甚早于憲法矣早于老後之修習偶終百篇
之切證我不及切確無一首可取之只以述早懷
力詮更不可知而已

永正十年臘月十九日

槐陰逃虛子

